

2026 年度 コーチング体験研修 実施報告書

CPD 委員会 山岸知彦
地域産業支援委員会 林 克彦

- ・研修日時： 2026 年 6 月 27 日（土）13:00～17:00
- ・研修会場： 新都心ビジネス交流プラザ 4 階 C 会議室（さいたま市中央区上落合 2-3-2）
- ・参加人員： 会員技術士 17 名（うち運営スタッフ 2 名）、講師 1 名
- ・講師： 若林 真樹（わかばやし まさき）氏
株式会社コーチビジネス研究所 CBL 認定アソシエイトコーチ
現場改善リーダー専門コーチ
日本技術士会 北陸本部 所属 技術士（化学部門・経営工学部門）

1. 研修内容

1) 技術士がコーチングを学ぶ意味

- ・技術士のクライアント像
- ・コンサルタントが陥りがちな傾向
- ・技術的課題（コンサルティング的アプローチ）と適応課題（コーチング的アプローチ）の違い
※適応課題を技術的課題として扱うとうまくいかない

2) コーチングとは何か

- ・コーチングの考え方（基本型、他の対人支援との違い）
- ・コーチングスキル（承認・傾聴・質問）
- ・実演、実践によるコーチング体験と振り返り

3) コーチング的な関わり

- ・若林講師の事例紹介と考察



2. 研修状況

昨年に引き続き、若林講師にご担当いただいた。若林講師は企業内技術士として約 20 年間、品質管理・品質保証業務に従事されてきた。現在は「現場改善リーダー専門コーチ」として、現場・職場の問題解決を支援している。本研修は体験型のため、集合形式で実施した。

本研修の目的は「コーチングの考え方とスキルを習得し、それぞれの現場に持ち帰る」ことである。冒頭、三人一組となり、自己紹介、参加理由、目標を共有した。その後、講師が提示した事例を基に「限られた時間でクライアントにどのような質問をするか」を討議し、コンサルティングのみでは限界があることを体感的に理解した。



演習では、コーチ役・クライアント役・観察者を交代しながら実践した。和やかな雰囲気の中、多くの質問が生まれ、コーチングの実践価値を体感した。質疑応答では、生成 AI の技術革新におけるコーチングの役割について議論があった。コーチングには人間同士の対話が不可欠であり、生成 AI だけでは代替しにくい技能であることを再確認した。

最後に近藤委員長より、技術士の視点でコーチング研修を実施いただいた若林講師へ謝辞を述べた。コンサルタント主体の技術士がコーチング手法を取り入れる重要性を伝えるとともに、支部 CPD セミナー「コミュニケーション力向上」の受講も勧め、閉会した。

本研修は、技術士がコーチングを体験できる貴重な機会であり、埼玉県支部の登録相談員の登録要件の一つとなっている。次回も多くの会員技術士の参加を促したい。

以上